

飯久保

飯久保の瓢箪（ひょうたん）石

県道71号線を万尾から惣領に向けて進んでいくと、国土地理院発行の50000分の1の地図にも記され、昭和16年に国指定特別天然記念物に指定された「飯久保の瓢箪石」があります。この瓢箪石は、周りの砂を有孔虫化石の石灰分が固めたノジュールの一種です。ここ瓢箪石は古くから有名だったらしく、江戸末期、加賀藩絵図方役所編の「三州地理雑誌」という古文書の中に「氷見の特産物・飯久保の瓢箪石、論田の箕、三尾のそうけ」と紹介されています。瓢箪石の形で分布するのは、仏生寺川左岸の飯久保地区の50m四方ほどのごく狭い範囲です。



瓢箪石がいくつもつながったものは多く産出するのか、古い時代に建てられた家屋などの礎石や、土盛りの一部に左端の写真にあるような瓢箪石が使われています。大イチョウで有名な朝日本町の上日寺では、石碑の台として使われています。石材を入手しにくかった時代には、高岡市太田地区の「太田石」と同じように重用されていました。

国内で「瓢箪石」産地として有名なのは、滋賀県甲賀郡土山町です。江戸時代中期の安永年間に木内石亭が書いた「雲根誌」や昭和42年に出版された益富壽之助著「石 昭和雲根誌」の中で紹介されています。（残念ながら氷見市のものは載っていないようです。）

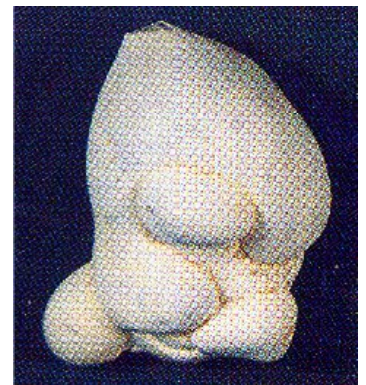
石川県珠洲市には「子ぶり石」と呼ばれるよく似たものもありますが、このノジュールは珪酸塩が周りの砂を固めたもので「瓢箪石」とは成因が違います。一口にノジュールといっても、いろいろな成因があるようです。



瓢箪石のつながったもの



形の整ったもの



珠洲市の子ぶり石